



Title	富永仲基の論語徴駁説
Author(s)	吉田, 鋭雄
Citation	懐徳. 1933, 11, p. 86-95
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88888
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

一、木 司 令

懷德堂所用、蕉園題字並銘。

二、螺 鈿 韻 匣

懷德堂講堂の床間に見臺と並べて置かれてあつた螺鈿の十二硯匣の一にて、蠟石に刻したる履軒筆迹の韻字を陥入してある。他の硯匣は皆散逸してしまつた。

以上共四十七點

富 永 仲 基 の 論 語 徵 駁 說

吉 田 銳 雄

富永仲基の事に就ては、已に斯界の人の周知する所であるから、敢て茲に贅言する事を省略するが、私は曾て池田人物誌中に此の人を取入れた爲に、多少其の遺書搜訪に留意して居る、然るに先般懷德堂書庫に收まつた故西村碩園先生の藏書を整理中、井狩雪溪（名は總、字季群、大阪の人、明和三年十月十九日歿）の著述に係る論語

徵駁(寫本)と云ふ一書を見た、處が圖らずも其の内に、富永仲基の同じ駁説が二十二條入つて居るのを發見して驚喜したのである。

原來雪溪の是の書は、荻生徂徠の論語徵を駁したもので、蓋し物學攻撃の先鞭を著けたものであらう、尤も五井蘭洲にも非物といふ書があつて、雪溪より以前若くは同時に論語徵攻撃に筆を染めた様であるが、成書は雪溪の方が早かつた様である、其の事は卷末に收めてある蘭洲の雪溪に與へた書中によつて判る、而して蘭洲の非物は中井竹山の非徵と共に明和四年に印行されたが、雪溪の是の書は遂に出版せられずして寫本として傳はつた。

碩園文庫の是の書は、赤羽の原虛齋といふ人が寫したもので、雪溪の原本ではない、原書は今見る事を得ないが、察するに雪溪は是の書が脱稿すると、五井蘭洲や仲基に見せて批評を乞ふたものらしい、それも卷尾に收めた蘭洲の書牘によつて窺はれる、而して仲基の批語はもと欄外か或は附箋でも、して書かれたものであらうが、それが此の書は雪溪の駁言と同じく本文中に「仲基云」として別行に書寫したものである。

さて是の書は十卷五冊で、(半葉九行十五字詰) 初に總論を附し、以下各篇毎に圈を附して各章の本文一二句を掲げ、一格下げて直に徂徠の言を駁撃して居る、仲基も雪溪と意見が一致して居るのであらう、同じく雪溪の言を補足して攻撃してゐる、其の駁説を今是の書中から拾ひ集めて見ると、總論に於て三條、公冶長篇一條、鄉黨篇一條、先進篇四條、顏淵篇九條、子路篇三條、憲問篇一條、總計二十二條ある、

すべて徂徠の説を痛快に反駁したもので、固より斷片的のものに過ぎないから、これによつて論語一部の書に對する仲基の全體の考を見る事は極めて間接的のものになるが、併しこれが爲に些少なりとも仲基の經說を窺知する事が出來やうと思ふ、故に今分り易い様に、先づ仲基の反駁した點に係るところの論語徵の文句を摘記し、次に一格上げて、仲基の駁說を原文其の儘掲げて、對照に便する事にした、但し其の説の可否に至つては、固より人によつて其の見解を異にする所であるから、茲に卑見を挾むの煩を避けたい、而してまた今日の場合それは私の目的ではない、仲基の遺書遺墨が多く現はれない今日、斷片零墨と雖も寶重すべきものであるから、私は只仲基の學說研究の貴重な資料として、此處に提供したまでである。

○總論三條

【徵】後世先生之道不明、豪傑之士以聖自處、遂至於以六經爲先王陳迹、獨潛心斯書、然學不師古、非孔子之心矣、廼敖然自取諸其心以爲解者、自韓愈而下、數百十家、愈繁愈雜、愈精愈舛、皆坐不師古故也、我學古文辭十年、稍々知有古言、古言明而後古義定、先王之道可得而言已、——是以妄不自揣、敬述其所知、——有故有義有所指擿、皆徵諸古言、故合命之曰論語徵、

【駁】以基觀物子、亦乃敖然自取諸其心以爲解者、古今學者孰不師古、亦孰不誦乎古文、但有彼疏於此云爾、物子豈能盡知古文、其所謂徵者亦一人之私徵、非天下之公徵也、其徒云々者皆夫子自夸也、非狂則癡、天下掠虛頭漢、夫子蓋其魁也、

【徵】蓋先生詩書禮樂、孔子之前學者亦傳其義、然其言人々殊矣、至於孔子而後論定、故所以命之爲論者、廼以命孔子事業乎爾、

【駁】仲基曰、論無定之義、雪溪先生盡之、（編者按雪溪云、論謂講論也、謂考評也、故論自論、定自定、不可捏合）且以物子之解論語、是孔子論定前世四術傳義之異、基閱現存論語、一無有之類者、物子所讀、豈有別本乎、可怪、如但命孔子事業云爾、何其泛焉、又論殊無定之義乎、開卷第一義、猶且擔枷過狀、可憐二十篇、不過一場懣懣、

【徵】古者大學有乞言合語、周官大司樂有樂語、凡言之可以爲教者皆謂之語、

【駁】仲基曰、周官大司樂云、以樂語教興道諷誦言語、是大司樂文、非保氏矣、豈亦有別本乎、

又曰、家語國語新語、豈皆以其可爲教名之乎、猶此方云物語者已、且如其說乎、言字亦然、諷誦言語、見于周官、食不語、寢不言、乞言合語、見于禮記、匪言勿言、匪由勿語、見于詩、亂之所生也、則言語以爲階、見于易、言語並稱、振古而然、今云訓語爲言非古矣、何也、如其可爲教、則言字亦同已、

○公冶長篇一條

（第二十二章）子曰伯夷叔齊不念舊惡章

【徵】家語曰、不克不忘、不念舊怨者、伯夷叔齊之行也、不克者不忤害也、不忘者無所顧慮也、

【駁】仲基云、伯夷叔齊不念前世之惡、西歸于周、享文王大老之養、而後其怨憾之心暫止矣、後及去而餓于

首陽、怨憾之心復起矣、以基觀之、是街上乞兒所能已、可笑、不克不忌、忌乃妬忌之忌、又失之、

○鄉黨篇一條

(第三章) 君召使擯色勃如也章

【徵】賓不顧矣、是聘禮之文也、——朱註曰、紆君敬也、可謂不知禮已、

【駁】仲基曰、儀禮云、賓不顧、是猶云鄉大夫勞賓、賓不見、是賓實不顧也、又君若降送之、則不敢顧辭、遂出、亦實不顧也、然鄭云、擯反告賓不顧、非其旨也、物子亦誤見以訾之、可笑、今孔子告君云、賓不顧矣、非紆君敬而何、

先進篇四條

(第一章) 先進於禮樂野人也章

【徵】先進後進、孔安國曰、謂仕先後輩也、朱子刪仕字、非矣、蓋是進士之進——質謂質行、文謂禮樂、凡言文質者皆爾、

不及門、鄭玄解、不及仕進之門、殊爲不通、蓋仕乃後字之誤、謂十哲不及後進之門也、

【駁】仲基云、臧文晏子、豈皆進古乎、何必以進士解之、管子宙合篇云、聖人著之簡策、傳以告後進曰、奮盛荅落也、下文又作後世人、是可見已、亦何必以仕解之、

又曰、禮者本、有文、行修言道、禮之質也、禮有文質、古之義也、物子欲以禮樂屬之文、而別求所謂質

者、可謂不知類矣、

又云、不及先進之問者、何獨限于十哲、其他蓋三千人、是皆爲及乎、亦不允、

(第二章) 從我於陳蔡者章

【徵】孔子坐、門人侍、皆以齒、千載之下、孰能易之、云々

【駁】仲基云、按史記子賤四十九、註云、家語作三十歲、又有若十三歲、意者亦物子有別本已、闕孟子云、宰我子貢善爲說辭、冉有閔子顏淵善言德行、子夏子游子張皆有聖人之一體、又云、子夏子張子游以有若似聖人、欲以所事孔子事之、彊曾子、檀弓亦云、曾子與子貢弔焉、皆不合、以基觀之、論語所記、或以文便言之、不必拘年齒、否者家語史記、全不足取信也、以是爲說、論語亦豈足取信乎、

(第四章) 子曰孝哉閔子騫章

【徵】孝哉閔子騫、外人稱閔子之言也、而孔子誦之、——人謂外人也、

【駁】仲基云、何以知外人之言、而孔子誦之、亦臆度已、凡孔子誦外人之言者、下必有判評之語、如先進章亦可見、

(第十三章) 魯人爲長府章

【徵】孔子曰、有中、後人解爲中理、非也、——謂其言有驗也、

【駁】仲基云、左氏哀十一、事舉其中、歛取其薄、事之中非理而何、上象傳、邑人不誠、上使中也、是亦常理

也、如物子說、子曰上當有缺文、

○顏淵篇九條

(第二章) 仲弓問仁章

【徵】在家謂在家之人、鄉人是也、君薨曰、在家不知、可以見己、

【駁】仲基云、在家、引君薨證之、因檢君薨、殊不通、古今所解者、亦莫如物子者、要之以欺人已、可笑、

(第三章) 司馬牛問仁章

【徵】仁人之爲仁、每難之、倭者則否、取其可言而言之、不復問其所爲何如、故其言每可聽、而害乎道、此巧言所以鮮仁也、

【駁】仲基云、巧言鮮仁之解、亦與前解異、甚哉、夫子之躁哉、

(第七章) 子貢問政章

【徵】是子貢爲邊邑宰而問政、故孔子告以此、民信之者、言民信其爲民之父母不疑也、

【駁】仲基云、子貢爲邊邑宰、是何不證、顏淵問爲邦、亦爲諸侯也、可笑、信乃左氏伐厚、以示之信之信、物子動輒以人信之解之、非也、

(第九章) 哀公問於有若曰章

【徵】微通也、爲天下之通法、

【駁】仲基云、微之義、一依朱註、而如自出者、勦說勦說、何也、夫子以知禮鳴、

(第十章) 子張問崇德辨惑章

【徵】愛之欲其生、惡之欲其死、人之情也、非惑、詩曰、君子萬年、又曰、投畀豺虎、可以見已、宋儒以欲生欲死爲惑、是佛老之見耳、

【駁】仲基云、詩以人情泛乎言之、孔子以君子明於道義者言之、其義自別、惡之欲其死是言、愚婦愚夫釘其樹爪其象之類、非惑而何、

(第十二章) 子曰片言可以折獄者章

【徵】片言者、聽訟者之片言也、朱註得之、——朱註、宿留也、迫急之甚、是自宋儒之見耳、

【駁】仲基云、古註是古來相傳之說、朱註是朱子鑿空臆說者、而今云、朱註得之、可怪古來相傳之說、亦豈不足信乎、荀子大略篇云、君子無留善無宿問、君子之志如窮、且鄉黨宿關之宿、俱可見已、朱註比古註爲優萬々、而今云迫急之性、是物子惰慢之性見之云爾、

(第二十章) 子張問士何如斯可謂之達矣章

【徵】察言而觀色、察人之言、觀人之色也、——色取仁者、唯顏色學仁者也、

【駁】仲基云、以顏色學安民之能、不知其術如何、

(第二十三章) 子貢問友章

【徵】忠告而善道、不可則止、——人多以爲交於是乎可絕矣、小人哉、

【駁】仲基云、止乃檀弓子未可以已乎之已、謂交絕也、彼不知文、妄取諸臆以作說、其意雖如美者、非古意也、
(第二十四章) 曾子曰君子以文會友章

【徵】以文會友、古者宴會皆用禮樂、文者禮樂也、

【駁】文乃文藝、以文會友、乃遊于藝之事、彼以宴會解之、亦未允、

○子路篇三條

(第五章) 子曰誦詩三百章

【徵】朱子曰、詩本人情、該物理、可以驗風俗之盛衰、見政治之得失、其言溫厚和平、長於風諭、故誦之者必達於政而能言也、可謂善解己、然朱子之解詩以義理、故此曰本人情、言主人情而教義理、是其所以下本字也、其意謂非義理不可以爲教、故不能離義理而解詩矣、是不知詩者也、夫詩悉人情、豈有義理之可言乎、然古所以謂詩書義之府者何也、古之所謂義者、殊於朱子所謂義焉、蓋書者聖賢格言、詩則否、其言無可以爲教者焉、然悉人情、莫善於詩、故書正而詩變、非詩則何以善用書之義乎、故所以謂詩書義之府者、合詩書而言之也、

【駁】仲基云、本人情、悉人情、有何別、物子以義爲先王之義、故至詩爲義之府而窮矣、故云合詩而言之、非也、周語云、詩書與民之憲言、又子夏云、詩之義皆是、義猶理也、詩之言皆理也、勸善懲惡亦皆有、

又云、長於諷誦、乃物子所謂知詩者、物子每々訾人以不知詩、朱子之意乃然、又非詩之體爲溫柔敦厚、何以教之、亦失之、

（第八章）子謂衛公子荆章

【徵】孔子之所善、在不遽而不在不欲、朱子以不欲爲解、大氏後儒義利之辨太過耳、

【駁】仲基云、物子云、在不遽、然不求盡美而備之意爲多、非不欲而何、

（第十二章）子曰如有王者章

【徵】程子曰、周自文武至於成王而後禮樂興、非矣、文王之所以爲文、語禮樂也、豈待成王也、

【駁】仲基云、文王制禮樂、非也、孔子云、以服事殷、可見、

○憲問篇一條

（第十六章）子曰晉文公譎而不正章

【徵】穀梁傳曰、交質子不及二霸、趙鵬飛引之而曰、春秋之世、無五霸之說、孔子但稱桓文、至于荀孟而後、沿時俗之稱曰五霸、五霸非孔門之舊、得之、

【駁】仲基云、穀梁傳中引尸子之語、尸子商鞅之師、鞅敗後、入蜀著尸子、鞅敗實在周顯王三十一年、而孟子見梁惠王、在三十二年、相去僅三年、是穀梁在孟子之後、不知幾何、然趙鵬飛引以訾孟荀者失之、呂子義賞篇引孔子之語、云霸者乃五、文公居其一、亦可見、